



性理真以夏

9
3873
2



冊 9
流 3873
卷 2

蛙の拘真似巻二



目錄

守屋大臣の事

退屈の類格子

野倒死乃天命

僥倖此君寵

蛙二

大塚
昭和 25.11.14
未



城井物志以卷二

守屋大臣の事

克兼主人漫編

其時菅家おほ勢らるゝみハ親迦天竺
 して仏法よりまゝ作らば元来西戎
 とて大みくごりある國なりて法度
 他法も形く。人の心是處ありて欲深く
 あくまき強熾かみて酒食み耽りて妻を
 聚一ひまら女を犯らば此畜生同意地獄
 と歎き法をなす作らば是れ

口人諸經論みさほぐ乃虚言をかきり
まうせ。兎角苦心とおこせんとの方便
天竺よりしてハ玉女使としておなり。一時の
樹皮とともふ魚。夫と文質兼備乃
唐土よみむろ先て。仏經を翻譯。教
秘をよみ書か。一よりよみ人あつみ。玉
女のして傳来してしてあつよハ戒み
牧子定本形をよみ。我朝神代の傳ハ
閑人皇七代孝養天皇の御宇。秦乃

徐福とつもの始自帝の惡を避ん為らみ
巧言富士山をみて蓬萊とハあまのやとの
まつごより不死の茶草をたて石臺物にして
地とんと耳くと如皇を湯中ニ童男を女救
千人經典貸財。あつこみは入大船にとり案て
日本よりくみけとらぬ。又意神の御宇百濟國
より阿直岐王仁。きこめて論語を傳。王
子公の師範と形り。継粹乃沛字にも五經の
博士。段揚尔とつもの五經をこら來り

註二

三

事國史より残るるは昔よりと文字の
あり形より通ぶる人ハ多く形。そ後人皇三
十代欽明帝の沛と死をうぐ幼て佛書は
わたりぬ厥産姓皇太子の生質りて聖学
り心つる是形ハ今以て神后は衰廢も有
し一より。淳者をもまもりしも。その時分
聖学にふり師形。仏理ハ耳ちり。愚人を
諭しを死にり迷りたりとるてありしを
と形。流るると今の世もあらはし。守屋を

悪人との目より人多し。守屋が
あくハ何ぞや。お屋ハ大連とそむりの
三公大長形。今の代は攝家なむ。
去る是ハ神后の廢て外國の教は昌
成りしをなげき。ハお屋後より下。
時の天子とつひ。ともみ太子乃叔父也
し。まると宗峻と皇を竊み殺させ
中多かる。蘇家の馬子を啼寢入め
周るも。とそに佛收形。ゆくと憤り

三二



三

守るをさうど死心あるものは馬子を誅
 とまて死んで死んで。太子固果を恐怖
 て合点せむ。天皇お世で馬子とさうと
 そのむらひ。今又さうさみ殺され
 ぬふ。わまう馬子をあはれ。又来世
 してまたさうとさうと。魯純るを
 守るをさうど死心あるものは馬子を誅
 せむ。やお敵の名をはあはれて。素戔
 尊と太子乃物部。物部の軍

敗きて守るをさうど死心あるものは馬子を誅
 ぬふ。わまう馬子をあはれ。又来世
 してまたさうとさうと。魯純るを
 守るをさうど死心あるものは馬子を誅
 せむ。やお敵の名をはあはれて。素戔
 尊と太子乃物部。物部の軍

退屈の顔格子

先皇御事。天下の農事。若く五

穀の厚をくりり包民み教一人を后稷
とす。周囲一帯封せし代く周とと
して。その千餘年の系古とつよ人。
北狄みちるき玉取れば狄人國を侵に
まろく。百葉別を敵めしてさへ。西
らぬ小狄なまは。周一玉つして中
てむろし成る。今根義玉衣服大馬
あ核擲をとれ。合兵せば。又大軍
りり。千ゆり古とハヤソ由結集人あて。

土地ハ人を聚らん。多きゆん形り。あつて
人を穀をハ本意あつて。道と君を
信ぐもお形。事。や。信て狄人を君と
せよ。民を安んじりて。岐山の林原へむ
きこまれぬ。玉人はとゆつてあり。がかり。
つよあつて。ひは。是も。都と形。隣國
まで。毛氣あて。地よひの。おとひつよ。
その。使。り。狄人もちる。ば。を。が。く。年
月を。経。た。ひ。一。沛。子。三人。泰。伯。仲。雍。季。歷。

とつふ泰伯ハ聖人なり。次の二人も賢人なり。
季歴純子昌とつふ是も南と聖人なり
存一ノ周ノ文王とつふ一ハ亦是なり。古
心ハ長子泰伯ハ聖人形ハ玉とゆはる。
季歴も聖人とつふ。よもハ孫純昌聖人形
也。これとつふ人とつふ形とつふ文目も
つふ一孫也とつふ。泰伯父の心をささりて才
仲雍とつふ一古公のたひみくさりて
一ノかくとつふ山みつり。荆蠻にいつつと

はかり一呉國みくれ。夷乃形も後を
断ガに文とつひて中國よりかこれど。
ありとつふ泰伯。舟にのり沖み出給ひき
が初風はよく吹かたり。櫓多し。楫おれき
かたはれ日本日向の浦より漂え給ふ。是
則天照自太神とつふ。唐土姓人泰伯仲
雍の心をささりて狂妄と謂。又ハ許由も
ひと海トてつと。教百歳乃後。孔子の
見つて泰伯とつふとつと。

天下を以て讓る。夫れを以て民はてその
法を稱する事あり。は免出り。後
志ざり。いり。海を場ふのせん。まごに
成すぬ。それゆへ日本を姫氏國といふ
秦伯ハ即姫姓あり。今もつて伊勢
内宮よ。二讓といふ額あり。そのは授多
一といふ。これを儒者の一説とす。日本紀神
代の古事記。天地未剖。陰陽未分。混沌
渾沌。鶏子のごとく。溟涬。牙と合たり

とて。一天成地。二あり。一物
あり。伏葦芽の。便化して神と形
是を玉常立とす。とて天神七代地神
五代と云。大日靈貴ハ乃事。伊弉諾伊弉冉
乃神子と云。り。す。後理の祿乃若
は。ふ。ときけた。神代秘密の大事といふ
多くハ事地より。て。理ハ多く形。その
及。理ハ只天地のな。と。由る。と。ち
人のけ。と。子細の。と。秘。て。奥。あ。く。を

寓言一り説く。ちよろと独て字面を以て
ハキコシぬやうにやひ形。我も合意の
由らぬハ神祕とてしてまのし思。を想
尤極け及程なれど唐土の書物よりある
のて。口よりいとおとみ私心より。いざと
迂まをみ云形一仕を一たりと君。あや
これ公及と志しぬ。まらうま。日本
の神道ととり生つる基となし。理み
あつ川あがき。屋形。一。修念。日輪の

私照形見。唐土とて。日と。日本を
て。日とは。別形。日と。日と。神代
乃文字な。て。三柱の神意のやと。定
もぬ。及程。先内侍所。ハ。咫。地。後。神。集。ハ
八坂。瓊。曲。玉。宝。釧。ハ。尊。薙。地。初。と。ハ。ま。ま。に
知。仁。面。方。の。之。使。り。て。お。さ。免。形。み。る。照。自
形。り。か。ぐ。え。乃。物。と。て。照。さ。る。こと。た。形
名。述。の。象。形。り。玉。の。温。潤。り。う。ら。か。り。さ
仁。德。地。象。釧。乃。断。切。の。勢。ハ。雷。力。の。象

なり。唐よりして知仁書力と文字よみて
譯教なるもお形ど。西教なり。日本は宗
廟とあが先なる伊勢も宮のま造り
しそいそどく智ぐくそまもは淳厚朴
素ありてまら木の柄うやゆき。信清
三杯茶。津法ものは塩とや宮室を
早して力と海漁みはく。飲食をう
まくして孝と鬼神みはく。乃は理
むと心してあがふる形く。符節を

合とらふごとく。名は玉風よりて遠くを
祀は素とよぶ。易みは所謂天地の神を
とよみ天乃覆ふ地乃載る。物として用
ひざらふお水穴の名形り。中庵みは須臾
も離べく。可離は道ありすと。しり
これをもろくしてみては傷る。しりお形み
ては今日人く切る。しりお形み
人より正世の路。しりお形み
わがす。しりお形みの好。しりお形みの悪。しりお形みのひと。

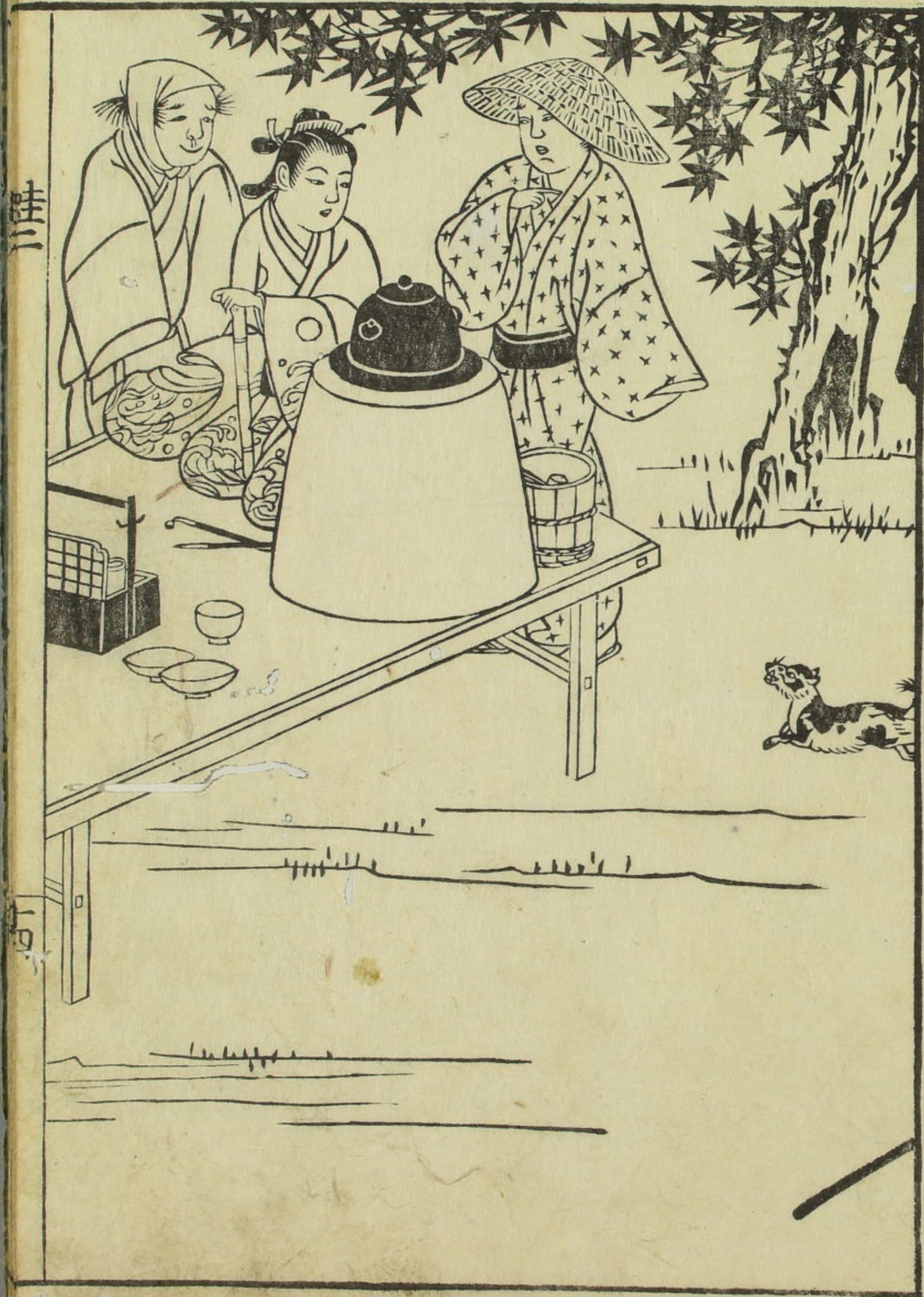
註
E

志ろ分れども神ハ冥冥孫チなす〜〜〜めて
的^{てん}面^{めん}みさめ流るる世ぬふゆて人こまう
づの邪^{よこしま}をバ。是れごころハ大事ありきと
すの智〜して。わが神^{かみ}出^でを昧^{くら}まうらそん
形^{かたち}あハ平日^{へいじつ}に連^つとむくとも金^{かね}もつや
〜〜〜の市^{いち}院^{いん}宣^{せん}形^{かたち}りけ私^{わたくし}心^{こころ}を
ひさうして。内^{うち}外^{そと}法^{ほふ}浄^{じやう}なるに紀^きハ神^{かみ}も納^{のう}定^{ぢやう}
〜〜〜信^{しん}服^{ふく}ま〜〜〜らうらま誠^{まこと}乃
〜〜〜の〜〜〜も神^{かみ}や

や〜〜とハ心^{こころ}乃^{なり}〜〜形^{かたち}也。我國^{わがくに}の神^{かみ}道^{みち}
〜〜〜此^{こゝ}儒^{にう}をみえはれぬゆゑ教^{きやう}ハ親^{おや}る
達^{たつ}チ老子^{らうじ}莊^{じやう}子^し列^{りやう}子^し揚^{やう}墨^{まき}の教^{きやう}も。迷^{まよ}
相^{あひま}侮^ぶ碎^{さい}み〜〜〜人^{ひと}ハ麦^{むぎ}飯^{いひ}好^{この}。麻^あ豆^{まめ}好^{この}の
此^{こゝ}〜〜一^{いつ}屯^{とん}ハ誰^{たれ}も〜〜〜り解^げ説^{せつ}と〜も
時^{とき}あ〜りてハまの五^ご杯^{はい}法^{ほふ}くも去^さてやり
孫^{まご}ふ〜とあれと。法^{ほふ}も〜らふ不^ふ〜食^{じき}邪^{よこしま}み
ふ〜と去^さりて。不^ふ斷^{たんと}ハ倉^{くら}粒^{つぶ}ハ法^{ほふ}。常^{じやう}人^{ひと}も
口^{くち}ぐ〜り六^{りく}正^{せい}あみて。法^{ほふ}けて茶^{ちや}の爲^{ため}に

く急めんと志れども。力持とてかひひまじり
ていさふ事とせしけぬとてい。志れぬもの。一七
乃おりのりさうりながるんて。あも遠へる
人多し。又佛者も己心の淨陀とあがれ
まもり。唯心の淨ちりり居るとトバ。これ
非とて是を拒ぐん。云敷一校と見ても
にくくぬあおとと。家仏法の方人み
天照太神宮を引込て。大日ぬまじやの。
る宝童子と申んじやとの名をほはあ意

神天自とと菩薩と号し。素意と爲る
と牛頭天自と。あぬ事をいひぬ
まより費僧坊主と儒生とみゆん
神及者も大祿多と下云とぬ。さし
時乃執神家のカリとくぬいがかく
てや。あらうか。神も本地とて。とほあ
られ。あ部。教合の交集混雜も出舎
いう形も大社りりも堂増と立交か
屋はうして。表をハ佛へまそやれ。可あや



祇園の社僧乃奴得ぬびのしく神しん湫しゅうをとりて
 一豆いちまゆを出いせバ寺僧じそうハお産うぶして喰く
 皆その存ぞんをとり失しひドドよりかたを乃
 我わが能あた神代しんよハ柳やなぎ並ならび上かみ古ふるの書あき傳つた
 形かたち象さう凡ふんハ人ひと身み初はつてより二千何百年
 とつ今いまの世よも時ときをとりて周しゅう乃の末まつトヤ
 乃の。祇ぎ園えんトヤ乃のとつ今いまもつて乃の推すい是ぜい
 の沙さ法ぽう。祇ぎ家けも又また多たク形かたち傳つた記ぎ形かたちて。
 祇ぎ氏し本ほんとつ今いまもつて乃の目め本ほん限げんの別べつイ

一大いちだつ格かくを説せつつとも又また堅けんいぢ成なりて。夫そく
 夫そとぬりハ一いちれ娘むすめぎりにとりて産うま
 産うまはハ心こころをばくト。かハ佛ぶつ法ぽう誓ちか昌しょう
 一いち伊い勢せいのミ出家いけハ齋さい堂どう坊ぼう多たる坊ぼうも
 一いち如に。誓ちか中ちゆうめて乃の大だい礼らいハ佛ぶつ法ぽうをとりて
 一いちらハ事こと形かたち大だい祀いみよりして仏ぶつ法ぽうの名なをさ
 一いち忌いて内外ないがいの誓ちか言げんをばくハ。是こゝに神かみ
 一いち道みちハ交まじりて乃の一いち味あじハ乃の唯ただ一いち
 一いち乃の今いまハ一いち避ひ一いち唯ただ一いち

以上はけりし不ハ仙法あり。形もの
末より。陰陽師。聖典。八卦。列
乃。九。何や。角や。支。集。混。雜。心。易。修。者
撮。易。其。素。侯。も。志。く。梅。華。心。易。修。者
書。乃。曆。書。形。を。以。て。先。つ。ま。ぬ。奇。如。院
物。を。稻。荷。大。神。と。是。く。多。分。を。取。り。て。外
天。照。大。神。宮。へ。初。穂。と。夏。冬。形。の。麻。袴
了。本。綿。大。と。是。ハ。か。も。ゆ。く。も。亦。と。中。は
乃。と。い。ひ。の。淡。黄。法。度。害。と。て。人。み。嫌。は。る。

や。に。形。り。切。も。之。根。元。を。推。セ。バ。亦。く
太子。乃。諺。く。り。ゆ。り。又。學。子。同。し。下。學
同。四。書。五。經。古。文。小。學。と。り。あ。い。と。や
大。儒。と。是。え。あ。は。後。滅。他。み。亦。多。し。和。漢。の
先。覺。先。生。も。大。き。み。見。こ。形。か。計。法。也
三。體。詩。錦。律。段。ハ。絶。後。一。の。出。債。題
眼。く。も。あ。ら。ぬ。俗。人。と。言。は。振。く。の。惡。口
と。知。者。の。樂。と。も。あ。り。是。河。浦。記。誦。の。此

そこが成へ一又一派乃學問とおわく
髪をも丹一一度て及月額ハ剃り口
と一そそみ醫苦くしと世と衣服もぞと
くさに脊み縷とせ。衣紋けくろくど。
川成その物活助あまこと學者の凡俗
うらむび。入公門鞠躬如くあそくにがて
あけ。うらむくハ。度出み生まぬと残念み
おまふ。うらむ成へ一。過庭よりけり。友ら
乃抱山抱身一。魚と感。男女別あり。あそ

日ろくくふさく。水茶店み一。急ても茶
碗と女の身よりく。と下心ハ。若木形ぬ
泳之。馬ア。く。みハ。か。世と學
者と。意。地。たり人。り。も。其。と。お。と。い。れ。さ
その。あ。と。ま。ん。と。あ。そ。ま。り。合。は。さ。み。の。ち
一。ハ。親。一。さ。い。女。も。ア。ら。う。け。り。は。き。あ。い。は
ま。と。と。く。學。子。同。慕。あ。ま。心。地。已。み。不。如
者。と。友。一。と。ら。事。お。く。ま。し。ま。ぬ。獨。清。類。也
冷。き。り。退。居。一。這。形。積。格。子。類。格。子

三

三

とよみののり形を結成くさくと成ふ
族あげて計く心術乃傳ふこ
が成く誠み孔を先賢のそへ
雲泥乃遠よみ及は是皆その侮
より出る。これらと俗呼で矣人と

野倒死の天命

よ成へ

新かんく南華の悟憺てんたんのそと面白くし行事も
造物者此命を受てけするがねれを

勉勵けんれいの天命より遂よのそ漢意地
多くしぬる族あり。一面りかたなきこと
長形らよめは是より陷おちてみか物草統
と形あり。何事し天命として時節
お素なまのの形と誰がむらうい
事とはとむふらものありんや。不和ふごがむし
人力を以て磨あげしを夜光やこうは夜玉
といがまなり。天命以てましを轉まつら法
乃のよみひり光とあしつらまきや。示

和楚の文王出玉三代一より一と
石形一として捨一八命といふ也。
成王の凡玉人乃玉一先はあもるも
於命といふ也。若乎和心み誠の
玉形一ぬと仍て君一此であらん共
捨一凡用らるるも天命といふ也。
乎和心み一毫乃私心形。あはまゝにして。
只は玉を空一く棄てん事を殘念み。
す。成王みより一也。天

無雙乃玉とは形より。是乎和已と云く
とといふ一。是みおわて研て光の出
とふふは。人カなり。人も己み何れ
亦智ありとと。学同乃功形くはれを
擴む事とほんや。天命は身として時
の人幼稚乃とれ。是棄て。ほわ
碌くも。庸人一。生を絶るのこみ
あ。欲み。敬り。味されて。いふ形
恵りともな。天命乃心は遠み

て一牛を懲りし。このうゝ。莊子秋水篇
何謂天。何謂人。牛馬四足是謂天。
絡馬首。穿牛鼻。且之謂人。此れハ
莊子もあぬがら人カを控ゆるもの。と一ハ
の大きぬる體を控ゆる。生まなうゝ人の
はくゝもの。トヤと心ほ。人もあゝとをく。御て
尺なまきて大猫同あり。おとよと。彼
大獸山林吼嘶。一死て尺あゝ人共

そとをく。とそれ。がらもの。わんや。其れを執
へん。みり。まきて。又角を觸。齒を咬。して
容易。まじり。り。ハ。成る。か。る。處。し。
人家。み。せ。り。人。此。養。を受。る。と。ま。り。て
渠も人。一。志。さ。ひ。人。も。心。を。く。う。六
天命。自。控。ぬ。る。と。あ。り。と。い。も。牛。の
鼻。と。も。通。る。と。馬。も。銜。を。掛。り。て。ハ
用。を。か。り。と。く。故。み。彼。の。人。カ。を。用。ひ
鼻。と。通。し。銜。を。け。て。つ。る。も。人。カ



とつてくても甲斐なれ時を
天命とあきらむべきものも年竟あふ
族の物草未束と先世と信。只引込
し案のそ姓工夫とらん。さあは
人の喰すふ時のそ物を殫喰せまな
もまは。二日四日も喰まて野例死を
まらんと。是天命と責て落意地を
らり通せば未也。尤も形くして不願
し。そのを喰かして。母の用の教言を

いん

僥倖の君寵

倖おとひいんふ。天地人と人姓の
は。さうら仁義礼智信の五常むつ
く。うすも余養ハ形。いん。人
人生七十ち象稀とや。人間僅乃
年殺の。うらむ。い勤とせん。り
物草。幕下も。成。な。鷄の
と。を。け。り。猫。の。亂。を。と。く。と。く。人

三

三

子名の清く固くやとおもひ人の
 助はなかりとせ給て世に実を
 ぬきほとのとあはれの中にも
 果報の清くものは大黒の腫く味
 とや。時節が来るといふが。孝謙天皇
 乃寵をとりし。乃削の及後。丹波の
 土百姓。法皇の號まで賜りし。誠み
 瓢箪をとめて。熱を壓はるる。齊し。
 一。乃後。時代遠て。後。先。

生れしに。寶の。乃ち。府。乃ち。
 楠正成。後醍醐天皇。忠臣として。父子
 三代戦死とせ。武名を日本に輝せ
 一。乃ち。子孫。玉守として。積善
 乃ち。家。乃ち。余。乃ち。乃ち。乃ち。
 乃ち。や。乃ち。乃ち。乃ち。乃ち。
 崇徳の氏。乃ち。乃ち。乃ち。乃ち。
 乃ち。北条。乃ち。乃ち。乃ち。乃ち。
 用ら。乃ち。乃ち。乃ち。乃ち。

十三年のあつたに形うぬと志ひて
一門におおし包腹切て亡びたがら恨の
一勾り。みふ人乃世みあつたに救たう
でうれよハもまぬわつた成らりいと後
室ハ花形うら。怒自何事と時節と
おとハ腹もあはに不足も形う。是を
一我彼の天命とあうう。先ん魚兒類
か〜ん

蛙の物志以巻二終

